

④ フッ素・昨日・今日・明日

秋田県における フッ素洗口事業に関して

秋田県はう蝕罹患率が高く、平成14年の3歳児のdmfは全国平均1・4本に対して2・48本と全国ワーストとなりました。県ではこの状況を打開するため、平成16年から18年の3年間、県単独の事業として県内の幼稚園・保育園100施設、5歳児、2,000

名を対象に1年間フッ素洗口を行う「お口ぶくぶく大作戦」を開始しました。事業の特徴は、洗口の費用は全て県が負担し、事業に関連して県が初めて歯科衛生士を採用したこと(平成16年度2名、17年度3名追加)です。

事業は県が主導して平成16年2月に新聞紙上で発表されました。しかし、秋田県ではそれまでフッ素洗口は僅かに1施設、60名で行われていたのみで、フッ素洗口を知らない県民がほとんどで、当初混乱を生じました。

これに対し、秋田市ではいち早く同年3月の市議会にて、誤飲の可能性や安全性の問題、現場の混乱等を理由に事業に不参加を表明しました。また、県内マスコミは、賛否両論があるなどと安全性を疑問視する姿勢の報道がなされています。

秋田県側では、県の事業の全面的に協力する対応策として平成16年4月に「フッ素洗口特別委員会」を設置しました。

委員会の活動は、県民に対するPR(テレビCM、パンフレット、ポスター)や啓蒙(テレビやラジオ番組、プロモーショナルビデオ作成)などの広報活動、県民にフッ素洗口に関する正しい知識を提供するため、専門家を講師に招いた県民公開講座を3回、(平成16年6月、11月、平成17年11月)開催しました。

また県内各地で開催された事業説明会では、フッ素のう蝕予防効果や洗口法について委員が講演を行いました。平成17年8月現在の実施施設数は61施設、人数は1,257名です。

現在の課題は、小学校での継続実施ですが、県の教育長に対して県側、歯科医

師会側から要望を提出したものの、教職員組合が反対しているため、現場の判断に任せるとの回答で、未だフッ化物洗口ガイドラインも教育現場には配布されていません。また事業開始当初から学校の教職員らが組織する「集団フッ素洗口を考える会」が活発に反対運動を行っており、マスコミ報道によって県民に誤解や不安を与えています。このような経緯の中、本年9月の県議会でも、フッ素洗口の安全性、有効性を論じる公開討論会を受け入れる考えはあるかとの質問があり、県側はこれに応じることにしました。

秋田の子供のう蝕をどのようにして改善していくか、事業年度も折り返し点を越えた現在、将に正念場になりつつあります。

(文責・日歯地域保健委員会)